

自己点検・評価 様式(平成29年度実施)

大学名 岡山大学

研究科・専攻名 大学院医歯薬学総合研究科

(生体制御科学専攻、病態制御科学専攻、社会環境科学専攻)

○ 入学者数、在籍者数、退学者・修了者数

※入学のコースを別に設けている大学は、コース別に記載すること。

※既退学者数及び既修了者(学位取得者)数については、平成29年4月末までの数を記載すること。

・平成24年度入学者

入学者数: 4名(定員 医歯薬学全体で 128名)

内訳:6年制薬学部卒業生 3名(内社会人 1名)

4年制薬学部卒業生 1名(内社会人 0名)

薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 0名

既退学者数: 3名

既修了者(学位取得者)数: 1名

・平成25年度入学者

入学者数: 6名(定員 医歯薬学全体で 128名)

内訳:6年制薬学部卒業生 1名(内社会人 0名)

4年制薬学部卒業生 5名(内社会人 3名)

薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 3名

既退学者数: 2名

既修了者(学位取得者)数: 1名

・平成26年度入学者

入学者数: 3名(定員 医歯薬学全体で 128名)

内訳:6年制薬学部卒業生 1名(内社会人 1名)

4年制薬学部卒業生 2名(内社会人 2名)

薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 3名

既退学者数: 0名

・平成27年度入学者

入学者数: 2名(定員 医歯薬学全体で 128名)

内訳:6年制薬学部卒業生 0名(内社会人 0名)

4年制薬学部卒業生 2名(内社会人 1名)

薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)

在籍者数(平成29年5月1日現在): 1名

既退学者数: 1名

・平成28年度入学者

入学者数： 2名(定員 医歯薬学全体で 128名)
内訳:6年制薬学部卒業生 2名(内社会人 0名)
4年制薬学部卒業生 0名(内社会人 0名)
薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)
在籍者数(平成29年5月1日現在)： 1名
既退学者数： 1名

・平成29年度入学者

入学者数： 0名(定員 医歯薬学全体で 128 名)
内訳:6年制薬学部卒業生 0名(内社会人 0名)
4年制薬学部卒業生 0名(内社会人 0名)
薬学部以外の卒業生 0名(内社会人 0名)
在籍者数(平成29年5月1日現在)： 0名
既退学者数： 0名

○「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)は、医学・歯学・薬学を基盤とし、研究・教育、先進的医療の中核拠点として貢献する融合型の医療系大学院である。当課程は、国際社会において高く評価されると共に地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダーならびに高度な専門知識と豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成することを理念およびミッションとしている。

アドミッションポリシーとして、1. 医学・歯学・薬学の創造的研究、学際的研究、国際的研究を志す人、2. 高度先端医療・全人的医療を志す人、3. 社会人として活躍しながら研究を志す人、を掲げており、この理念に合致する学生を入学させている。

また、カリキュラムポリシーは、1. 医学・歯学・薬学の専門的知識と技能を結集した学際的研究・教育を提供する、2. 世界をリードする先端的・独創的研究を実施する、3. 科学の進歩に適応しうる問題解決能力、高度で幅広い知識を提供する、4. 社会人、留学生に対応したカリキュラムを提供する、ことにより学部教育において不足する専門的知識や研究技術を学び、それぞれの将来においてスペシャリストになれるような、また、スキルを磨くような教育研究を行う場を提供している。カリキュラム内容は本学の理念とミッションに適合したものとなっており、医歯薬学で展開される講義／演習のすべてを履修することで達成出来るものとなっている。授業科目に関しては、高度な到達度を要求するものとなっている。

ディプロマポリシーに関しても、1. 目的に連結した専門性、2. 情報収集・活用力、3. 社会をリードする行動力、4. 社会での自己実現力、を満たすような教育を実践しているところである。

以上のように、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは本学医歯薬学総合研究科の理念とミッションに合致しており、それに基づいた教育を実践している。一方、入学者に関しては定員を満たしていない状況が続いている。社会人学生だけでなく、今後は内部進学者や他大学からの進学者が入学するよう、広報活動などを通じて募集に努める。

・「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と、実際に行われている教育との整合性について、4年制薬学部を基礎とした博士課程の教育課程との違いを明確にしつつ、自己点検・評価を行うこと

○ 入学者選抜の方法

4月入学に関しては、年2回(8月および1月)、10月入学に関しては年1回(8月)の受験機会を設けている。

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出願書類等を総合して行っている。試験科目は以下の通りである。

筆記試験: 英語、専門科目(志望教育研究分野)

口述試験: 専門科目(志望教育研究分野)

○ カリキュラムの内容

本学大学院医歯薬学総合研究科がこれまで実績をあげてきた共通コア科目(研究方法論基礎・応用と課題研究)および専門科目により研究手法の修得と論文の作成を行うものである。さらに、学際的な内容に対応出来るように専門科目に「副科目」制を導入し、他の教育研究分野の指導を受ける体制を整えている。

共通コア科目 研究方法論基礎:5単位(2年次まで)

研究方法論応用:4単位(2年次まで)

課題研究:5単位(3年次まで)

専門科目

主科目 講義・演習(所属する教育研究分野):4単位(2年次まで)

演習・実習(所属する教育研究分野):8単位(2年次まで)

副科目1 講義・演習(他の教育研究分野):2単位(1年次)

副科目2 講義・演習(他の教育研究分野):2単位(2年次)

シラバス <http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/mdps/index02.html> 参照

教 育 課 程 等 の 概 要

(医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 コア 科目	研究方法論基礎	1～2通		5		○								オムニバス 一般コース・がんプロ フェッショナルコース (薬学系)・分子イ メージング教育コース 用
	研究方法論応用	1～2通		4		○								オムニバス 一般コース・分子イ メージング教育コース 用
	研究方法論応用	1～2通		6		○								オムニバス ※演習 がんプロフェッショナル ルコース(薬学系)用
	課題研究	1～3通		5			○							一般コース・分子イ メージング教育コース 用
	専門研究	1～3通		4			○							がんプロフェッショナル ルコース(薬学系)用
	小計(5科目)	—		24		—								—
専門 科目	生体 制御 科学	細胞組織学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1		1	2		
		細胞組織学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1		1	2		
		細胞組織学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1		1	2		
		細胞組織学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1		1	2		
		人体構成学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1			3		
		人体構成学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1			3		
		人体構成学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1			3		
		人体構成学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1			3		
		システム生理学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1	1		2		
		システム生理学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1	1		2		
		システム生理学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1	1		2		
		システム生理学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1	1		2		
		分子医化学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1			3		
		分子医化学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1			3		
		分子医化学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1			3		
		分子医化学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1			3		
		循環器内科学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1	1		1		
		循環器内科学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1	1		1		
		循環器内科学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1	1		1		
		循環器内科学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1	1		1		
		心臓血管外科学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○				1	2		
		心臓血管外科学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○				1	2		
		心臓血管外科学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○			1	2		
		心臓血管外科学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○			1	2		
		麻酔・蘇生学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1	1		3		
		麻酔・蘇生学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1	1		3		
		麻酔・蘇生学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1	1		3		
		麻酔・蘇生学Ⅱ(演習・実習)	2通	4			○	○	1	1		3		
		救急医学Ⅰ(講義・演習)	1通	2		○	○		1			1		
		救急医学Ⅱ(講義・演習)	2通	2		○	○		1			1		
		救急医学Ⅰ(演習・実習)	1通	4			○	○	1			1		

	救急医学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1			1	
	組織機能修復学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○			1		2	
	組織機能修復学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○			1		2	
	組織機能修復学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○		1		2	
	組織機能修復学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○		1		2	
	薬理学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1			2	
	薬理学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1			2	
	薬理学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1			2	
	薬理学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1			2	
	歯科薬理学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○				1	2	
	歯科薬理学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○				1	2	
	歯科薬理学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○			1	2	
	歯科薬理学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○			1	2	
	毒性学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1	1			
	毒性学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1	1			
	毒性学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1	1			
	毒性学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1	1			
	疾患薬理制御科学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1			1	
	疾患薬理制御科学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1			1	
	疾患薬理制御科学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1			1	
	疾患薬理制御科学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1			1	
	薬効解析学AⅠ（講義・演習）	1通	2		○	○			1			
	薬効解析学AⅡ（講義・演習）	2通	2		○	○			1			
	薬効解析学AⅠ（演習・実習）	1通	4			○	○		1			
	薬効解析学AⅡ（演習・実習）	2通	4			○	○		1			
	薬効解析学BⅠ（講義・演習）	1通	2		○	○			1			
	薬効解析学BⅡ（講義・演習）	2通	2		○	○			1			
	薬効解析学BⅠ（演習・実習）	1通	4			○	○		1			
	薬効解析学BⅡ（演習・実習）	2通	4			○	○		1			
	脳神経機構学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1			4	
	脳神経機構学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1			4	
	脳神経機構学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1			4	
	脳神経機構学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1			4	
	細胞生理学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1	1		2	
	細胞生理学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1	1		2	
	細胞生理学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1	1		2	
	細胞生理学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1	1		2	
	生化学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1	1		2	
	生化学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1	1		2	
	生化学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1	1		2	
	生化学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1	1		2	
	精神神経病態学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1	1			
	精神神経病態学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1	1			
	精神神経病態学Ⅰ（演習・実習）	1通	4			○	○	1	1			
	精神神経病態学Ⅱ（演習・実習）	2通	4			○	○	1	1			
	脳神経内科学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○		1		1		
	脳神経内科学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○		1		1		

		脳神経内科学Ⅰ（演習・実習）	1通	4		○	○	1		1				
		脳神経内科学Ⅱ（演習・実習）	2通	4		○	○	1		1				
		脳神経外科学Ⅰ（講義・演習）	1通	2		○	○	1	1	1	2			
		脳神経外科学Ⅱ（講義・演習）	2通	2		○	○	1	1	1	2			
		脳神経外科学Ⅰ（演習・実習）	1通	4		○	○	1	1	1	2			
		脳神経外科学Ⅱ（演習・実習）	2通	4		○	○	1	1	1	2			
		小計（ 84 科目）	—	252		—		64	44	20	136			—
選択プログラム		心筋梗塞特論	1通	2		○								オムニハース
		脳卒中特論	1通	2		○								オムニハース
		メタボリックシンドローム特論	1通	2		○								オムニハース
		アンチエイジング特論（医学）	1通	2		○								オムニハース
		臨床老年医学特論	1通	2										オムニハース
		口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学	1通	2		○								オムニハース
		基礎統計学	1通	2		○								オムニハース
		社会疫学（応用）	1通	2		○								オムニハース
		ライフサイエンス入門	1通	2		○								オムニハース
		小計（ 9 科目）	—	18		—								—
選択科目（薬学系副科目）		創薬有機化学Ⅰ	1通	2		○	○	1						
		創薬有機化学Ⅱ	2通	2		○	○							
		精密合成設計学Ⅰ	1通	2		○	○							
		精密合成設計学Ⅱ	2通	2		○	○							
		合成医薬品開発学Ⅰ	1通	2		○	○	1			1			
		合成医薬品開発学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		薬用天然物化学Ⅰ	1通	2		○	○	1						
		薬用天然物化学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		医薬品機能分析学Ⅰ	1通	2		○	○	1	1					
		医薬品機能分析学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		生体膜と薬物の相互作用特論Ⅰ	1通	2		○	○	1	2		1			
		生体膜と薬物の相互作用特論Ⅱ	2通	2		○	○	1	2		1			
		応用生物薬剤学Ⅰ	1通	2		○	○	1						
		応用生物薬剤学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		生体応答制御学Ⅰ	1通	2		○	○		1					
		生体応答制御学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		生体分子解析学Ⅰ	1通	2		○	○	1						
		生体分子解析学Ⅱ	2通	2		○	○		1					
		小計（ 18 科目）	—	36		—		8	12		3			—
がん専門科目	がんプロフェッショナルコース	悪性腫瘍の管理と治療	1通	1		○								オムニハース
		医療倫理と法律的・経済的問題	1通	0.5		○								オムニハース
		医療対話学（コミュニケーションスキル）	1通	0.5		○								オムニハース
		がんチーム医療実習	1通	0.5			○							オムニハース
		医療情報学	1通	0.5		○								オムニハース
		小計（ 5 科目）	—	3		—								
	がん専門医・薬剤師共通科目	がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学	1通	1		○								オムニハース
		がん臨床検査・病理診断・放射線診断学	1通	0.5		○								オムニハース
		臓器別がん治療各論	1通	2		○								オムニハース
		がん緩和治療	1通	0.5		○								オムニハース
		小計（ 4 科目）	—	4		—								

系) 臨床腫瘍専門科目(薬学)	がん治療修練	1通	1	○									オムニバース
	がん専門薬剤師特論	1通	2	○									オムニバース
	がん薬物治療実技演習	2通	1		○								オムニバース
	集学的治療薬特論	2通	2	○									オムニバース
	臨床薬理学特論	2通	2	○									オムニバース
	小計 (5 科目)	—	8		—								
目教分育こいめす専門科グ	P E T 科学アカデミー	1通	2	○									オムニバース
	分子イメージング科学 (講義・演習)	1通	2	○	○								オムニバース
	分子イメージング科学 (演習・実習)	2通	4		○	○							オムニバース
	小計 (3 科目)	—	8		—								—
合計 (133 科目)		—	353		—	72	56	20	139	0			
学位又は称号		博士 (薬学) 博士 (学術)		学位又は学科の分野			薬学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
・一般コース 修了要件は、4年以上在学し、必修科目14単位 (共通コア科目：研究方法論基礎5単位、研究方法論応用4単位、課題研究5単位)、選択科目16単位以上 (主科目：所属する教育研究分野の講義・演習4単位、所属する教育研究分野の演習・実習8単位、副科目：他の教育研究分野の講義・演習又は選択プログラム4単位) を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。 ・がんプロフェッショナルコース (薬学系) を履修する者は、必修科目30単位 (共通コア科目：研究方法論基礎5単位、研究方法論応用6単位、専門研究4単位、がんプロ共通コア科目3単位、がん専門医・薬剤師共通科目4単位、臨床腫瘍専門科目 (薬学系) 8単位) を修得すること。 ・分子イメージング教育コースを履修する者は、必修科目22単位 (共通コア科目：研究方法論基礎5単位、研究方法論応用4単位、課題研究5単位、分子イメージング教育コース専門科目8単位)、選択科目8単位以上 (所属する教育研究分野の講義・演習4単位、所属する教育研究分野の演習・実習4単位) を修得すること。 ・ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。						1学年の学期区分			2期				
						1学期の授業期間			15週				
						1時限の授業時間			90分				

履修案内 Registration of Class Subjects

① 一般コース General Course

【コース概要】 Outline of the Course

「一般コース」とは、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科がこれまで実績をあげてきた共通コア科目（研究方法論基礎・応用と課題研究）及び専門科目により研究手法の習得と論文の作成をおこなうコースです。さらに学際的な内容に対応できるよう専門科目に「副科目」制を導入し、他の教育研究分野の指導を受ける体制を整えています。

履修方法 Registration

修了するために必要な授業科目の合計単位数は、30単位です。

共通コア科目として、下記の通り履修してください。また、専門科目として、所属する教育研究分野の「講義・演習」4単位、「演習・実習」8単位、並びに他の教育研究分野の「講義・演習」、選択プログラム、薬学系副科目又は連携大学院科目を4単位以上履修してください。

	単位数 Credits	年次ごとの単位修得（例） Example of Academic Year			
		1	2	3	4
共通コア科目 Common Core Subjects					
研究方法論基礎 Introduction of Basic Medical Sciences	5	-----→	5		
研究方法論応用 Introduction of Clinical Medical Sciences	4	-----→	4		
課題研究 Research Seminar for Doctor's Degree	5	-----→	5		
専門科目 Specialized Subjects					
主科目 講義・演習（所属する教育研究分野） Major Subjects Lecture/Research Projects (Major)	4	2	2		
演習・実習（所属する教育研究分野） Research Projects and Practices (Major)	8	4	4		
副科目 1 講義・演習（他の教育研究分野） Minor Subject 1 Lecture/Research Projects (Other department), Elective Program, Or Subject in Cooperative Course	2	2			
選択プログラム又は連携大学院科目 Minor Subject 2 Lecture/Research Projects (Other department), Elective Program, Minor Subject in Pharmaceutical Sciences Or Subject in Cooperative Course	2		2		
計	30				

②がんプロフェッショナルコース（臨床腫瘍学教育課程）（薬学系）

【コース概要】

「がんプロフェッショナルコース」は、薬剤師の資格をもち一定の実務経験を有する専門職を対象とし、がんに特化した臨床研究方法の理解と実践，トランスレーショナルリサーチの実践ができる人材の育成をおこない、地域でのがん医療の均てん化に役立てることを目的としたコースです。

具体的には、メディカル，コメディカル共通のカリキュラムの履修や、多職種によるチーム医療等を実施します。

このコースには、下記のコースがあります。

がん専門・指導薬剤師養成コース

履修方法 Registration

修了するために必要な授業科目の合計単位数は、30単位です。

詳細は、次の通りです。

	単位数 Credits	年次ごとの単位修得（例） Example of Academic Year 1 2 3 4
共通コア科目 Common Core Subjects		
研究方法論基礎 Introduction of Basic Medical Sciences	5	-----→ 5
研究方法論応用 Introduction of Clinical Medical Sciences (疫学・医療統計学・臨床研究疫学実践論)	6	6
Introduction to Medical Epidemiology, Biostatistics, Practical Course in Clinical Research and Epidemiology		
専門研究 Research Seminar for Doctor's Degree	4	-----→ 4
その他のコア科目 (悪性腫瘍の管理と治療，医療倫理と法律的・経済的問題，医療対話学，がんチーム医療実習，医療情報学)	3	-----→ 3
Management and Treatment of Malignant Tumors, Medical Ethics and Legal and Economic Issues, Medical Communication Skill, Team Oncology Practice, Medical Informatics		
がん専門医・薬剤師共通科目 (がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学，臨床検査・病理診断・放射線診断学，臓器別がん治療各論，がん緩和治療)	4	-----→ 4
Cancer Basic Science/ Clinical Pharmacology, Cancer Clinical Laboratory / Pathological Diagnosis / Radiological Diagnosis, Organ-specific Cancer Management, Palliative Care		
臨床腫瘍医専門科目（薬学系）		
がん治療修練 Clinical Training in Cancer Boards	1	-----→ 1
がん専門薬剤師特論	2	-----→ 2
Potential Adverse Reactions in Cancer Chemotherapy		
がん薬物治療実技演習	1	-----→ 1
Protocol Management in Cancer Chemotherapy		
集学的治療薬特論	2	-----→ 2
Supportive Therapy in Cancer Chemotherapy		
臨床薬理学特論	2	-----→ 2
Individual Cancer Chemotherapy		
計	30	

③ 分子イメージング教育コース Molecular Imaging Science Course

【コース概要】 Outline of the Course

「分子イメージング教育コース」は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科と（独）理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター（理研CLST）が協力し、連携大学院を設置して分子イメージング技術を習得するコースです。

分子イメージングとは、生体内での分子の挙動をリアルタイムに可視化する手法で、その可視化は、非侵襲的に行えるのが特徴です。汎用される分子イメージング技術には、光イメージング（蛍光，発光），磁気共鳴イメージング（MRI）および核医学イメージング（PET，SPECTなど）があり、今日、わが国の科学技術政策においても推進される重要研究分野です。

このコースでは、分子イメージング科学研究の第一線の研究者による基礎から臨床応用にわたる広範な講義ならびに演習や、おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC) や理研CLSTでの実習等が予定されています。

履修方法 Registration

修了するために必要な授業科目の合計単位数は、30単位です。

共通コア科目として、下記の通り履修してください。また、専門科目として、所属する教育研究分野の「講義・演習」4単位、「演習・実習」4単位、並びに「分子イメージング教育コース関係科目」8単位を履修してください。

	単位数 Credits	年次ごとの単位修得（例） Example of Academic Year
		1 2 3 4
共通コア科目 Common Core Subjects		
研究方法論基礎 Introduction of Basic Medical Sciences ^{※1}	5	-----→ 5
研究方法論応用 Introduction of Clinical Medical Sciences	4	-----→ 4
課題研究 Research Seminar for Doctor's Degree	5	-----→ 5
専門科目 Specialized Subjects		
主科目 講義・演習（所属する教育研究分野） Major Subjects Lecture/Research Projects (Major)	4	2 2
演習・実習（所属する教育研究分野） Research Projects and Practices (Major)	4	-----→ 4
分子イメージング科学プログラム Specialized Subjects of "Molecular Imaging Science"		
分子イメージング科学（講義・演習） Molecular Imaging Science Lecture/Research Projects	2	2
(演習・実習)	4	-----→ 4
Research Projects and Practices		
PET科学アカデミー The Science Academy of Positron Emission Tomography	2	2
計	30	

- ・別途シラバス及び教育課程等の概要（別紙様式第2号）を添付すること
- ・履修モデルを添付すること

○ 全大学院生の研究テーマ

	研究テーマ名	研究の概要
①	小胞型GABAトランスポーターの輸送機構	小胞型GABAトランスポーター(VGAT)はH ⁺ の電気化学的勾配を利用してGABAとCl ⁻ イオンをシナプス小胞に輸送するトランスポーターである。 VGATはGABA作動性神経の活動をコントロールする重要な因子であり、薬学上きわめて重要なトランスポーターである。しかし、膜輸送体の解析が困難であるため、分子機構は不明なまま残されている。本研究では精製トランスポーターの技術を応用し問題解決に挑むとともに、神経科学分野の発展に貢献する。
②	ピボキシル基を含む抗菌剤による低血糖に関する調査	ピボキシル基を有する抗菌剤は小児患者に低血糖をもたらす可能性が示唆されており、医薬品医療機器総合機構から注意が喚起されている。一方、疫学研究の知見は不十分で、発生割合やリスク因子については明らかではない。本研究ではレセプト情報を解析することにより、低血糖リスクに関する疫学的な知見を得ることを目標とする。成果は小児における適切な抗菌剤使用に資するものである。
③	医療データの解析による疫学的研究	医療レセプトデータ等を収集・分析し、適切に活用しながら現場での気づきに基づき設定した課題について解析記述を行い、情報発信に至る。このことを通じて、社会人として活躍しながら現場で発生した課題について研究を行う素養を養う。
④	がん専門薬剤師の活動による医療の質および医療経済への貢献度の研究	全国初の取り組みとして自施設で開始した薬剤師外来に関する診療実績の分析、他職種および患者からの評価を調査し、がん専門薬剤師が外来診療を実施することの有益性を証明するための研究を実施してきた。現在は自院での治療症例について後方視的に情報収集し、医師が単独で診療した患者群と、がん専門薬剤師と協働して診療した患者群について、抗がん剤治療の治療効果(再発率、再発までの期間)や、投入した医療費などを比較・解析して、がん専門薬剤師の職能による医療の質と医療経済上の貢献度を探索する研究に取り組んでいる。
⑤	救急・集中領域入院患者のQOLに関する研究	救命を目的とする集中治療においても、患者予後を考慮してQOLの評価が重要と考える。以下の点について調査研究を実施する。 1 救急入院患者のせん妄発現率の調査と併用薬剤、合併症などの背景因子の調査を行う。 2 救急入院後、救急病棟において薬剤師の早期介入群(平日入院)と数日後介入群(週末入院)の不安・抑うつ比較調査(薬剤師の早期介入が望ましいデータを出したい。)を行う 3 深部静脈血栓症に関する薬剤師を含むチームの介入効果を調査する。 いずれも、大学院生が勤務する北九州市立八幡病院の患者を対象とし倫理委員会または医療情報管理委員会の承認を取得する。その後1年間データを収集し解析する。
⑥	救急・集中治療領域における敗血症症例に対する抗菌薬適正使用	敗血症治療において「日本版敗血症診療ガイドライン 2012 年版」では原因菌同定後の de-escalation が推奨されているが、その成果は未だ明確にされていない。本研究は自身が勤務する川崎医科大学総合医療センターにて倫理委員会の承認を得て入院患者の薬歴調査を行い、血症患者に対する de-escalation の有益性を評価することを目的とする。 使用された抗菌薬、検出された細菌の特徴、抗菌薬投与後の経過を中心に統計学的解析を行い、最適治療法の開発に貢献できることを期待する。

- ・在籍する全大学院生の研究テーマ名及び研究の概要を記載すること
- ・研究の概要については、テーマ設定の着想点、研究成果が薬剤師の実務など臨床に与える影響等を「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」との整合性を踏まえつつ、簡潔に記載すること

○ 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究体制

本学では、平時より教育研究に関して岡山大学病院薬剤部との連携体制をとっている。さらに、本学(薬学系)教員が高度救命救急センタースタッフとして院内診療支援体制を敷いており、大学院博士課程と大学病院の連携体制のもと研究推進環境も整えている。加えて、岡山県薬剤師会会員が運営する複数の保険調剤薬局、岡山市民病院や岡山赤十字病院とも連携し、調査研究を行う予定である。社会人大学院の研究が円滑に進捗するために、当該学生の勤務する病院／薬局と本学が提携し、教育研究施設となるよう承諾を得る予定である。

(注) 他職種との連携も含む

- ・研究テーマと関連づけて記載すること
- ・連携先の医療機関・薬局等関連施設側の指導体制も踏まえて記載すること

○ 学位審査体制・修了要件

学位審査体制

学位論文は自著であって、論文の内容が学術雑誌に印刷公表されたもの、又は学術雑誌に投稿中であって、掲載証明書のあるものに限る。

学位論文の形式は、次の項目に該当するものとする。

学位論文は自著であって、論文の内容が学術雑誌に印刷公表されたもの、又は学術雑誌に投稿中であって、掲載証明書のあるものに限る。

学位論文の形式は、次の項目に該当するものとする。

学術雑誌に公表した1つ以上の論文(共著論文を含む、ただし、少なくとも1つは査読制のある学術雑誌の筆頭著者でなければならない)の内容をまとめて、単著論文としたもの

※但し、共著論文で学位を申請する場合、1論文1回限りとして、共著者の同意を得たものでなければならない。

修了要件

- ・博士課程に4年以上在学し、30単位以上を修得していること
- ・研究指導を受けていること
- ・学位論文の審査及び最終試験に合格していること

課程修了の基準は、上記の修了に係る要件を満たすものとする。ただし、在学期間に関しては、「岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修業年限の特例(4年未満修了)」に関する申合せ事項により承認された者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

○ 修了者の博士論文名、学術雑誌への掲載状況、進路状況

	博士論文名	学術雑誌への掲載状況			修了者の進路状況
		タイトル	雑誌名	暦年・掲載号・頁	
①	Riccardin C誘導体の抗菌活性と作用機構の解析	Riccardin C derivatives cause cell leakage in <i>Staphylococcus aureus</i> .	Biochim Biophys Acta.	2015,Oct;1848(10 Pt A):2057-64	大学職員 一般企業研究者
②	補骨脂および呉茱萸のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対する作用物質に関する研究	Constituents of <i>Psoralea corylifolia</i> fruits and their effects on methicillin-Resistant <i>Staphylococcus aureus</i> .	Molecules	20,12500-12511, 2015	

- ・既修了者の博士論文名、博士論文に関連する論文の学術雑誌(査読付きのもの)への掲載状況及び修了者の進路状況を記載すること

○ 社会人大学院生への対応状況

社会人学生の便宜を図るため、大学院設置基準第14条に定める教育法の特例(昼夜開講制)を適用しています。
また、標準修業年限(4年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修できる長期履修制度があります。

- ・入学者選抜や入学後の履修における社会人への対応状況について、自己点検・評価(工夫や今後の課題を含む)を行うこと

○ 今後の充実・改善

最大の問題点は、6年間の学部卒業後に大学院4年制博士課程に進学する学生が極端に少ないことである。本学では、そのほとんどが就職を希望し、在籍している大学院生は社会人学生が大部分を占めているのが現状である。今後の薬剤師を取り巻く環境変化を考慮すると、進学者を確保する必要がある。そのために、学部に入学者時点から、大学院に進学する意義や将来のビジョンをしっかりと伝えている。さらに、本年から1年次より希望者を募り、いくつかの研究室に配属し、早期教育を行なっている。この取り組みを介して、本学卒業生の進学率向上に努めたい。

また、臨床的要素を含んだ新たな大学院講義を構築し、学部生や地域の社会人(卒業生)にも積極的に開講することで、臨床薬剤師としての問題提起やその解決能力を向上させる取り組みを行う。期待する結果として、さらなる知識獲得を目的とした大学院への進学に繋げたい。

- ・自己点検・評価を踏まえ、大学院4年制博士課程の教育・研究における今後の充実・改善に向けた方策や課題を記載すること
- ・大学院生の在籍状況(定員充足の状況、修了・退学率等)や修了後の進路状況を踏まえた方策や課題についても記載すること